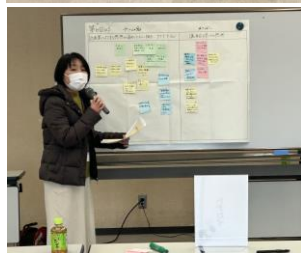
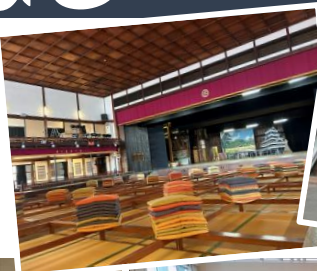


HOKA ~どうする!?嘉穂劇場~ HOKAちゃんねる

06

まとめ & 特別講演会



嘉穂劇場が生きた劇場として存続しているのは”奇跡”

もっと色々な立場・世代の市民とぶつかり合いたい!

令和5年12月23日、市民ワークショップ最終回を迎えました。連日猛暑日が続いていた8月からスタートし、気が付けばクリスマス直前になっていましたね…!

最終回は飯塚市文化施設活用検討委員会副委員長の徳永高志さまにご講演いただき、芝居小屋の歴史やまちとつながる公共劇場の事例などをご紹介いただきました。

嘉穂劇場が「生きた劇場」として今も残っていることは奇跡だということ、そしてその価値を後世に伝えるためには、地域が一体となって動き出す必要があるということを改めて実感した講演会でした。

様々なお立場や考え方を持って参加された皆さん。初回は少し緊張も感じられましたが、今となれば、これからの嘉穂劇場や飯塚のまちを盛り上げる、ひとつの「チーム」に大きくステップアップしていったように感じます。

嘉穂劇場の一日でも早い再開をただ願うだけでなく、自分たちができることは何か、どうすれば休館中にもぎわいを創出できるか、「じぶんごと」として考えるチームが確かにここにいます。もっと立場や世代、意見の異なるメンバーを集めて(時にはぶつかり合いながらも…)このチームの輪をどんどん大きくしていきましょう!

市担当者より最後にひと言ごあいさつ

5か月という長い期間でのワークショップでしたが、『嘉穂劇場愛』溢れる皆さんからの発言に多くの気づきをいただき、毎回、次のワークショップ開催を心待ちにしていました。

最終回の盛り上がりにも感謝です。これからも嘉穂劇場再開を目指して皆さんと議論を深めていけたらと思っています。ありがとうございました。

嘉穂劇場ギャラリー

劇場は現在休館中ですが、舞台装置や桟席などが当時のまま保存・継承されており、「生きた芝居小屋」の歴史を今も感じることが出来ます。劇場内の一部をご紹介します。



熱い想いがつまったWS意見一覧は裏面へ!

チーム	計画案に対する感想や追加してほしい視点・アイデアなど	講演会を受けての感想
サンタクロース	<ul style="list-style-type: none"> ・コスモスコモンと嘉穂劇場の使い分けを戦略的に ・スポンサーの募集 ・名誉館長の公募 (知名度のある方、インフルエンサー) ・伝統、古さが新しい(昨今のブーム) ・市民応援団の組織づくり ・公共施設になったからには学校との連携を! ・お酒が飲める日をつくる ・飯塚ブランドの商品のお買い物ができる場 	<ul style="list-style-type: none"> ・継続って難しい… ・応援するのはファン! ・物語があるものにはお金をおとす (嘉穂劇場にはその価値がある) ・皆に愛される劇場に ・いろいろ問題があっても、一部だけでも残せる奇跡! ・劇場を通して市民がつながる視点って大事だなあ ・伝統と最先端の融合、楽しみです ・議論し続けるのが大事だと感じました
プレゼント	<ul style="list-style-type: none"> ・この活動を具現化するために何が必要か議論すべき ・いますぐできることはやる ・“生きる劇場”に ・劇場活性化のため、市民参画のチーム編成をどう構築すべきか ・ボランティアメンバーの募集など具体的な計画が必要 ・会社組織として考えたら、人事・企画・経理・実働部隊・PRなど分業化した動きをどう構築していくのか? ・各階層の人々の参加が必要 (子ども～高齢者の縦断的な集まり) ・ライトアップしてほしい ・飯塚の嘉穂劇場以外何かあるのか? よく考えた方がいいと思うよ! ・私のイメージする飯塚は「お芝居」「お菓子」「長崎街道」など”おもてなし”のまち ・現時点での市民の声が取り入れられているのか? ・嘉穂劇場の再開について市民(反対意見も)との会話の場は持たれたのか? 	<ul style="list-style-type: none"> ・学んで知ることが楽しいということが分かる (文化、芸能、地域を好きになる教育を地道に…) ・長い歴史の中で人々の需要に寄り添い、進化してきた劇場の形を知ることができた ・大人向けの講座をしてほしいです ・劇場をとおして地域の人々が集まり、意見を出し合って創造し続けるサイクルが必要 ・外部より市民の話を
トナカイ	<ul style="list-style-type: none"> ・技術者や接客のサポーター制度を具体的に取り入れてほしい ・休館中は他都市の劇場で嘉穂劇場主催公演を行ってほしい ・ここでいろいろな人と出逢って行きたいと思いました ・子ども劇場や市民劇場と協力していく ・筑豊の消えた劇場とコラボしてほしい ・学生と来たい! ・行政との関係性は? ・嘉穂劇場に関連する団体への補助金の支給 ・小劇場があるとよい ・いち早くメディア戦略を展開してほしい ・ワークショップの回数が足りない ・周辺施設の整備案がはっきりしていない ・色々あるでしょうが市民にOPENの目標を ・運営主体のヒアリングとはどういうイメージか? ・一番のポイントは“運営主体”だと! ・シアターワークショップさんの今後の関わり方は? 	<ul style="list-style-type: none"> ・茅野市はワークショップ140回、どうすればこの熱量が? ・時代の流れの中で変わっていった芝居小屋の歴史がよくわかった ・自分も体験した地方劇場、小劇場の価値を改めて実感した ・各団体の参加、活動が必要 ・“劇場文化を育み、地域を共につくる” →飯塚市もそうなりたと思いました ・ヒアリングしたり、歴史を調べたいです ・ワンコインシネマ行きたいです!